

**公益社団法人日本新体操連盟**  
**平成 30 年度第 3 回理事会議事録**

1. 会議名： 平成 30 年度第 3 回理事会
2. 日時： 平成 30 年 11 月 12 日（月）18 時 30 分～19 時 50 分
3. 場所： 東京都港区西麻布 3-2-32  
「霞会館」
4. 構成員現在数： 15 名
5. 出席役員： 二木 英徳（会 長）石崎 朔子（副 会 長）池田真喜子（専務理事）  
渡辺 守成（常務理事）熊谷 正儀（理 事）谷口 裕代（理 事）  
橋本 千波（理 事）守永 直人（理 事）小島浩二郎（監 事）  
以上 9 名
6. 欠席役員： 関田史保子（副 会 長）山崎 浩子（常務理事）秋山エリカ（理 事）  
崇島 慎一（理 事）谷原 誠（理 事）宮嶋 泰子（理 事）  
村田 愛子（理 事）  
以上 7 名
7. 議案：  
報告事項  
第 1 号報告 平成 30 年度上半期事業について（定款第 4 条関連事項）  
決議事項  
第 1 号議案 日本体操協会表彰について（定款第 4 条関連事項）  
第 2 号議案 AGG について（定款第 4 条関連事項）  
第 3 号議案 その他
8. 議事の経過及び結果

(1) 議長による開会宣言

（公社）日本新体操連盟・定款第 30 条第 2 項の定めにより議長を会長二木英徳がつとめ、開会宣言を行った。

(2) 議事録署名人の選出

定款第 32 条により、議長は議事録署名人を二木会長、小島監事、谷口理事、橋本理事にする事を議場に諮り承認された。

(3) 定足数の確認

定款第 31 条の定めにより、理事会出席者数が 8 名であることが池田真喜子専務理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。

(4) あいさつ

議長は挨拶をすませ、池田真喜子専務理事が進行を務めるよう依頼した。

(5) 報告事項

第 1 号報告 平成 30 年度上半期事業について（定款第 4 条関連事項）

議長は説明者として池田真喜子理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

1. 第 27 回全日本新体操クラブ選手権について

8 月 1 日から 3 日にかけて高崎アリーナにて開催した。

参加者数は 209 クラブ 627 名の参加であった。

2. 第 19 回日本新体操祭について

8 月 4 日にかけて高崎アリーナにて開催した。

参加者数は 17 クラブ 368 名の参加であった。

3. 第 18 回全日本新体操クラブ団体選手権について

8 月 23 日から 24 日にかけて高崎アリーナにて開催した。

参加者数は 185 クラブ 1236 名の参加であった。

4. イオンカップ 2018 世界新体操クラブ選手権について

9月28日から30日にかけて高崎アリーナにて開催した。  
参加者数は14クラブ42名の参加であった。

(質疑・意見)

石崎副会長より、イオンカップの視聴率で名古屋が良かったことについて質問があり、守永理事より、新体操クラブ数も東海地区は比較的多いこと、地域によって放送時間にばらつきがあったことが報告された。

二木会長より、クラブ団体選手権のシニア優勝チームの得点が19点台と大変高い得点であるのはどのようなことかと質問があり、石崎副会長よりルールが変更となり、D得点に上限が無くなった事など説明があった。

## (6)議決事項

第1号議案 日本体操協会表彰について(定款第4条関連事項)

議長は説明者として池田真喜子専務理事を指名し、池田専務は下記内容の説明を行った。

日本体操協会功労賞の推薦が11月末となっている。年齢基準、長年の功労などを考慮し、谷口裕代理事を推薦したい。

(質疑・意見)

質疑・意見・異議はなかった。

以上の議事後、第1号議案「日本体操協会表彰について」は、谷口理事を推薦する事を全会一致で承認可決された。

第2号議案 AGGについて(定款第4条関連事項)

議長は説明者として池田真喜子専務理事を指名し、池田専務理事は下記内容の説明を行った。

国際AGG連盟への加盟金の支払が1月にある。国際AGG連盟より事前連絡、相談等なく大阪でワールドカップを開催する計画の件や、こちらから連絡しても返事がとれない等、国際AGG連盟が信頼おける団体なのか揺らいでいる。来年度以降どのように接していくのか審議いただきたい。

(質疑・意見)

石崎副会長より、4月に開催を予定していた日本でのワールドカップの開催は中止となった。国際AGG連盟とは連絡を取り合うことが必要であると報告と意見があった。

池田専務理事から日本国内に本連盟とは別にAGG連盟が立ち上げる話を聞いている。AGGの統括をそちらに任せると良いのではないかと意見があった。

二木会長より、国際AGG連盟の運営主体や会長の氏素性は確かなのかと質問があり、渡辺常務理事より、国際の舞台では国際AGG連盟はIOCにも認められていない。ワールドゲームスを開催し、多種多様なスポーツを扱っているGAISFにも認められていない。国際体操連盟にも認められていない等、国際的には認められていない団体となると回答があった。

池田専務理事より、国内だけでAGGを行い、国際AGG連盟への登録は様子を見ても良いのではと意見があった。石崎副会長より国際大会に出るにはもうひとつ団体が出来ることになってしまうのではと意見があり、渡辺常務理事より、そのような流れになるだろうがそうすると国内に2つ団体があり混乱を招くと意見があった。

石崎副会長より、AGGを運営していくためには日本新体操連盟のようなしっかりした組織が必要であり、現状新しい団体の動きはないと報告があった。

池田専務理事より、新しい組織を作る動きがあるのであればそちらに任せると良いのではと意見があった。

石崎副会長より、組織がしっかりしている必要がある。海外大会への出場は出たもの勝ちや早い者勝ちなど国内が混乱する。日本新体操連盟がやっているから参加者が助かっている。現在AGGもやっている加盟クラブからすると2つの団体になると新体操は新体操連盟、AGGはAGG

連盟と費用も倍になり不便だ。参加している運営者からは感謝の声が届いている。公平な団体が統括するべきであると意見があった。

池田専務理事より、本連盟は国際 AGG 連盟に決められたフォームより登録し、費用を払い、筋を通して活動をしているが、国際 AGG 連盟の方は連絡もなしに、大阪で世界選手権を開催しようとして信頼が置けない。前回の理事会で抗議文を出す件があったが石崎副会長の預かり案件となった。国内だけ本連盟で活動する案もあるが、国外大会に出たいという行動にはどのように対応するのか考える必要があると意見があった。

熊谷理事より、国内で AGG を統括する以上は、国外は好き勝手にどうぞということは統括している以上問題が生じると意見があった。

橋本理事より、本連盟は AGG を離れ、AGG 大会に出ていた選手たちを対象に新体操の新たなカテゴリーを設ければよいと意見があった。

守永理事より、8月に開催したクラブ団体選手権で2019年の国際大会出場権を与えているがその対応も検討いただきたいと意見があった。

渡邊常務理事より、2019年の海外派遣までは責任をもって送り出し、2019年の大会以降は派遣しないようにした方がよいと意見があった。

二木会長より、国際 AGG 連盟との関係は信頼を置けないし、リスクかと思う。選手たちを送り出すにしても選手たちに安全に大会に参加できるか責任を持ってない。今回は国際 AGG 連盟の事情を鑑みて、派遣中止という判断もあるのではないかと意見があった。

石崎副会長より、国際 AGG 連盟に文書を出し、その回答で判断してはと意見があり、池田専務理事より、これまでの経緯を見ると結果は同じかと思うと意見があった。

以上の議事後、第2号議案「AGGについて」は、2019年度はAGGを日本新体操連盟で取り扱わない。2019年国際AGG連盟には加盟しない。国際大会出場権獲得チームには派遣中止の説明を行う。全日本新体操クラブ団体選手権AGG大会に参加していた選手たちには2019年から新たな大会カテゴリーを設ける。ことが全会一致で承認可決された。

#### 第3号議案「その他」について

議長はその他について、議場に諮ったが何もなかった

#### (6) 閉会宣言

議長は他に質問、意見がないのを確認し理事会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、出席した代表理事、監事及び指名議事録署名人は次に記名押印する。

平成 30 年 11 月 12 日

公益社団法人 日本新体操連盟 平成 30 年度第 3 回理事会

議事録署名人（代表理事） 二 木 英 徳

議事録署名人（監事） 小 島 浩二郎

議事録署名人（指名） 谷 口 裕 代

議事録署名人（指名） 橋 本 千 波

